

育てる会通信(仮称)第1号

2019年9月12日発行

(発行)「京都やましろ保養の家」を守り育てる会

http://fukushimakkyoto.namaste.jp/hoyou_no_ie.html

●育てる会事務所 所在地

〒612-0066 京都市伏見区桃山羽柴長吉中町55-1

コーポ桃山105号 市民測定所気付

090-3627-2925 (神田)・090-8232-1664 (奥森)

●やましろの家 所在地

〒619-0235京都府相楽(そうらく)郡精華町東畑前坂16

京都やましろ保養の家



やましろの家 保養受け入れ始まる!

みなさまにご協力いただいた「開設資金カンパ」は80万円を超え、保養の家の整備・清掃を行い、7月1日から利用受付を開始しました。避難経験のある栃木県在住の方が、家族4人で夏休みに1週間利用されました。9月に入ってからは、福島県いわき市在住の方が2週間の予定で利用されています。保養の家は、順調な滑り出しとなっています。

みなさまからのカンパや助成金のおかげで、保養利用者への交通費補助(大人4万円、子ども2万円を上限に実費補助)も始めました。交通費の補助は、「とても助かります」とのお声をいただいています。本当にありがとうございました。

このたび、「育てる会通信」(仮称)第1号を発行しましたので、みなさまにお届けします。今後は、年2回程度発行する予定です。

保養の家の取り組みは、長期にわたるものとなります。みなさまからの引き続きのご支援を、よろしく願います。

●やましろの家を利用して

保養の家を利用することが出来たので、のんびり色々な事を気にせず過ごすことができ、とても良かったです。

少し足を伸ばせば生活に必要なものも揃う環境にあり、宿泊する場所は少し離れて静かな場所だったのでゆっくりと過ごすことができました。

みなさまの協力があって、このような形で宿泊させていただけたことを本当に感謝しています。

離れた土地でも気にしてくださる方たちがいて、支援してくださっていることもとても励みになり嬉しく思います。

保養の家滞在中ですが、基本的にはのんびりと過ごそうと思っていたので予定は詰め込まず、ゆっくりと過ごさせていただいていました。父親と長男は、釣りをしたり、近くの公園でサッカーを

したりのんびりと過ごしていたようです! 大阪まで足を伸ばして、万博公園まで遊びに行きました!

釣りは、台風の影響もあったので、日本海ではなく和歌山の方に行ったと言っていました! 地元では釣りはなかなか躊躇してしまうところがあるので、久々にのんびりとできて楽しかったと長男も言っていました。

サッカーも暑かったようですが、当たり前の事をいろんなことを気にせずできたということが親にとっても気持ちもリセットできてとてもよい滞在でした。

なかなか地元では話せなくて苦しいことも忘れて、とてもいい時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

(栃木県・H)

京都やましろ保養の家スタート 6/29開設記念のつどい開く

●避難者と地元支援者もともに

「京都やましろ保養の家を守り育てる会」（以下、育てる会）は7月1日、夏休みから利用を開始する「京都やましろ保養の家」（以下、やましろの家）の受付を開始しました。

さっそく1家族から申込書が届きました。栃木県から京都市内に母子避難していましたが、様々な事情で地元に戻っている家族です。今回は父親を含めて家族4人そろって保養に来ることになりました。うれしい限りです。

育てる会は6月29日、やましろの家の見学会と開設記念のつどいを京都府相楽郡（そうらくぐん）精華町の現地で開催しました。参加者は10人とすくなかったのですが、滋賀県、奈良県、大阪府からも参加があり、「家族保養」をコンセプトとするやましろの家への期待の声が寄せられました。

育てる会は、やましろの家の開設に向け、次のように呼びかけてきました。

「原発事故により放出された放射能の影響を受ける地域に居住している人たちが、一定期間、放射能の影響を受けない地域で生活し、クリーンな空気を吸い、汚染されていない食品を摂取することで、放射能による健康への影響を低減させ健康回復につながることで、チェルノブイリ原発事故後の取り組みによって実証されています。福島原発事故後にも、放射能の影響を軽減させるための『保養キャンプ』などが全国各地でとりくまれてきました。2013年から（中略）健康相談会を開催してきた『避難者子ども健康相談会』のメンバーから、福島県などに住む家族やグループが夏休みなどの期間に利用できる『保養の家を京都南部に作ろう』との声があがり、準備をすすめてきました」とし、畳や建具の修繕や生活用品の購入のために必要な資金として、40万円の開設資金カンパを訴えてきました。

カンパは、開始早々に当初目標額を突破しました。そこで、「保養に来る家族に対する交通費の



家主の神田さんのあいさつ

補助」を目的を加え、目標額を80万円に引き上げました。6月30日までに77人から、74万円を越えるカンパが寄せられ、この夏から交通費補助も実施できることになりました。協力していただいた方々に、心から感謝いたします。ありがとうございました。

●心寄せ合い、力出し合って

育てる会のスタッフには、福島から京都に避難している避難者（原発賠償訴訟の原告でもある）が3人加わっています。また、地元精華町在住の大学教員の方にも新たに参加していただきました。奈良県生駒市（精華町の隣）在住の方も保養利用者へのサポート（車での送迎など）を申し出てくれています。

やましろの家は、原発事故被害者に心を寄せる地元の方をはじめ、多くの方に支えられてスタートすることができました。実際の利用が始まると様々な課題もでてくると思いますが、スタッフ・支援者が心を寄せ合い、力を出し合って乗り越えていきたいと決意しています。

やましろの家の情報については、こちらをご覧ください。

http://fukushimakoto.namaste.jp/hoyou_no_ie.html

保養に興味・関心のある方に、ぜひお知らせください。育てる会では、引き続きカンパを呼びかけています。（奥森 祥陽）

2019年度の活動方針について

1 運営体制の確立

(1) 育てる会の会員を新たに100名獲得します！

・開設資金カンパをいただいたみなさまには、今年度の育てる会会員とさせていただきます、今年度中に新たに100名の会員拡大をめざします。

(2) 事務局（スタッフ）会議を定期的に行い、やましろの家の管理・運営や支援を上げるためのイベントを企画・実行します。

・月2回程度の清掃・管理業務の実施
・保養の意義・必要性を市民に広げる講演会やイベントの開催。
・情報交換のためのメーリングリストの開設
・各種団体の助成金の獲得をめざします

2 保養利用者への支援・サポート活動

(1) やましろの家利用者をサポートする活動

・育てる会会員や地元支援者との交流会の実施、保養の家での生活のサポート、観光案内
・情報提供、子どもへの学習支援、送迎支援など

(2) 保養利用者への交通費補助を行います。

・今年度は大人4万円、こども2万円を上限に補助をおこないます。
・引き続き、やましろの家利用者の交通費補助のためのカンパ活動に取り組みます。

3 情報発信

(1) やましろの家の情報発信を行います。

・会報を年2回程度は発行します。
・ホームページ、ブログにより、やましろの家の利用に関する情報を発信します。

4 役員体制

・現時点で確認をいただいているのは以下の方です。引き続き、募集します。
・役員の体制・役割分担は、運営委員会で決定します。

(五十音順、敬称略)

池村、上野、梅谷、奥森、神田、小山、
佐藤、齋藤、高木、吉井

守り育てる会 会則

(名称) 第1条 この会の名称は、「京都やましろ 保養の家」を守り育てる会と称する。

(目的) 第2条 この会は、原発事故による放射能被害を受けた家族のための「京都やましろ 保養の家」を適切に運営し、あわせて、保養の家の利用者に対する必要なサポートを行うことを目的とする。

(所在地) 第3条 この会の事務局を京都市伏見区桃山羽柴長吉中町55-1 コーポ桃山105号に置く。

(会の活動) 第4条 この会は、「京都やましろ 保養の家」を放射能被害を受けた家族が、ゆっくりと保養できる場所にするために必要な活動を行う。

(会員) 第5条 この会の目的に賛同し、年会費1,000円を納めた個人は会員になることができる。ただし、会費を1年以上滞納したものは、会員資格を失う。

(退会) 第6条 退会は、代表に届け出れば自由にできる。

(総会) 第7条 代表が招集する年1回の総会において、活動総括・方針、決算・予算、役員体制を決定する。3分の1以上の会員の要望により臨時総会を開催することができる。

(総会の議決) 第8条 総会の議事は、出席した会員の過半数を持って決し、可否同数の時は議長が決するところによる。

(役員) 第9条 この会の役員として、代表、事務局長、会計、会計監査を置く。また、必要に応じて事務局員を置くことができる。役員の任期は1年とし再任を妨げない。

(会計) 第10条 この会の経費は、会費、参加費、寄付金、助成金、その他の収入をもって充てる。この会の会計年度は毎年4月から翌年3月までとする。

(付則) 設立年月日

この会は、2019年6月29日に設立された。

スタッフからのメッセージ

● 伏見の池村です。

週に一度、ももやま子ども文庫で避難してこられた方々とお話しが出来たことが、福島とのかかわりのスタートです。

この3月で苦渋の選択をして福島に帰られたり、そして、避難出来ないままずっと福島で過ごされている方々が、いつでも来たい時に来てひと時を過ごせる場所があればと思っていました。今回の「やましろ保養の家」は、まさにそういった人たちの場になると思います。とても嬉しいことです。

ご実家を提供してくださった神田さん、せっせと準備を進めてくださった奥森さんはじめみなさま、たいへんお世話様でした。

「お手伝いします」と声を上げたものの、あれこれと他のボランティアをやっておりますので、すでに、時間的にも体力的にも難しいなあと思っているところです。

「出来ることを出来る範囲です」という役割で、何か私でも出来ることがあればということで名前を連ねさせていただきました。逆にご迷惑をおかけしないかと心配する始末。とりあえずこの一年、という気持ちです。よろしく願います。
(池村 奈津子)

● 宇治市の上野です。

去年、保養の家を作る話がもちあがり、神田さんの実家を見に行き、家自体（増築部分）はこじ



京都やましろ保養の家

んまりとしていいと思いましたが、なにせ駅から遠く、交通が不便だと思いました。果たして来たいと言う人がいるだろうか、と。

そんな心配をよそに奥森さんの猪突猛進の情熱に引っ張られて、6月29日のオープニングセレモニーまでこぎつけました。その日も集まるのは前からのスタッフだけではないかと危惧していましたが、京都市内や大阪、奈良からも見学に来られ、中には車の運転で協力できると仰ってくださる方もおられて、嬉しい誤算でした。その前のミーティングには精華町在住の方が参加されました。

これまでから保養とかに関心はあったものの、具体的に何をしたらいいのかと思っておられた方が近くに保養の家ができるのなら、自分も何か手伝えることがあるかも知れないということで集まって来られたのだとおもいます。そうだとすると、交通の便が悪いということも、地域の協力を喚起する上でプラスに働いているのかも知れないと思返しました。もし、これが市内の便利な場所なら、車の運転で協力できるよと行ってくださる方も現れなかったでしょうから。

幸い、早くも親子で1週間保養に来たいという申し込みがあるとのこと。幸先いい出だしです。まずは、いったん避難したものの、いろいろな事情で帰らざるを得なかった方が気軽に保養に来てもらえるといいなと思っています。

(上野 益徳)

● 奈良市に住んでいる梅谷です。

原発に疑問を持ち始めた矢先、3・11が起ってしまった。あれからあっという間に8年が過ぎ、こんなにも簡単にケリをつけようとするこの国に、終わらせようとするこの国に「諦める」なんて言葉は使いたくないです。大人が諦めたら、子どもたちはどうなるのか？ いつもそう思います。

神田さんのご厚意で保養の家が開設でき活動の幅が広がって、ここを拠点にまた新しい支援の方々と繋がっていけるのではという期待感があります。先日の「開設記念のつどい」に参加して、リフォーム前を知っている私はとても綺麗になった

保養の家にびっくり！ 北側の窓からもし海が見えたら丹後半島の民宿の部屋みたいです。ぜひぜひ来てください！

京都と奈良の境にある「保養の家」。危機感薄い奈良県民にも知ってもらって、じわじわ～と「原発あかなあ～」の想いが広がり、原発をなくす行動に繋がって行ってほしいと思っています。今はスタッフとして軽の車でちょっとでも送り迎えのお役に立てるよう（気持ちだけにならぬように）頑張りたいです。皆さん、宜しくお願い致します。（梅谷 敦子）

● 宇治市在住の奥森です。

「保養の家をつくろう」と考えるようになったのは、1年ほど前のことです。2013年から年2回続けてきた「避難者子ども健康相談会きょうと」は、被ばくによる健康被害や健康不安を抱える親子の思いに伝えるものとして大きな役割を果たしてきましたが、一方で、年を重ねる毎に相談者が減少するという状況でした。

2017年からは、齋藤さんたちが中心になって取り組んでいる「さぽーと紬」の保養事業（被災地と京都をつなぐ親子交流会）とリンクさせて、夏に健康相談会を開催することになりました。福島県など放射線の影響の強い地域に居住している親子の相談を受けることになり、相談会の新たな展開が始まりました。

放射線の影響を避けるための保養ということを考えて場合、短期間の保養事業だけではなく、年間を通して、必要な時にいつでも、長期間であっても利用ができる場所が必要だと考えるようになりました。

そして、家族やグループで利用できる空き家はないかと思っていたところ、身近にありました。空き家になっていたスタッフの神田さんの実家を利用させてもらえないかと口説きおとし、なんとかOKをもらい、実現に動き始めました。

動き始めてからは早かったです。いつもながら、京都の支援者のみなさまの底力を感じます。

これからは、長く続けていくことが課題となります。引き続き、よろしく申し上げます。

（奥森 祥陽）



● 家主の神田です。

「京都やましろ保養の家」に心寄せ

「京都保養の家」という名前だと京都市内にあると勘違いされるのでは？ では「山城、」にする？ 「山背」もあるよね？ 「保養の家」開設準備の終盤、名称を決めるスタッフミーティングでのやりとりです。

（大和国（奈良）から見れば山の背後にあるので「山背」という名のとおり、「やましろ保養の家」は奈良近くにあります。）

終盤での楽しいミーティングに至るまでの経過（気持ち）を報告します。

1 資金

昨年来、5月のGWには、試しに宿泊受入れてきたらいいね…、というのがスタッフの思いであり目標でした。

少し遅れましたものの、5月に入り開設資金カンパを目標（40万円）の半分以上いただき、畳、襖の修繕等に大きく動きだしました。現在は、目標を超えるカンパをお寄せいただきまして本当にありがとうございます。皆さまの支えにより開設できました。

2 修繕

畳は張替えしなくても、上敷きを敷けば安くできるのでは？ とも思っていましたがおかげ様で張替えることができました。襖も地元の業者さんのお世話になり美しくなりました。

3 片付け

大きい筆筒の移動ってできるのかな？ 押入れを空っぽにできるかな？ と思っていましたが（年老いた？失礼）スタッフの方の献身的な姿勢のおかげで頑張れました。

4 見学会&開設の集い

滋賀県等、遠くからも多くの方に来ていただきました。保養所に近い奈良からも来ていただき勇気付けられました。

真剣に訴えていただきましたメインスタッフの思いが届きました。ありがたいことです。

5 保養受入れ

実際に保養受入れでき、ご利用の2日目に使い勝手について伺ったところ「特に困ったことはない」とおっしゃっていただき本当に良かったです。

色々としなければならないことがあり大変なことでも、回りの皆さまの支え（カンパ等）やスタッフの皆さまの熱意のおかげで開設できました。

ありがとうございました。

（神田 高宏）

● 福島市から避難してきている小山です。

こちらに来て、支援する会の皆さんをはじめ、本当にたくさんの皆様の温かい支援をいただき、日々感謝いたしております。いつもお世話になってばかりなので、何か自分たちにもできることはないかと考えておりました。

掃除でも草むしりでも、少しでも役に立てたら、と思わず手をあげたところです。

避難したくてもできないでいる人、避難した様々な事情で戻った人、保養の家が誰もがほっこりとくつろげる場所になることを願います。

どうぞよろしく願いいたします。

（小山 信二郎）

● 桃山の齋藤です。

私は現在NPO法人和での避難者支援事業が本職ですが、さぼーと紡の代表として毎年夏に「つむぎプロジェクト」を企画し、たくさんの人に協力いただきながら被災地の子どもたちを京都で受け入れてきました。

「避難者こども健康相談会きょうと」は保養の家のスタッフと皆で活動してきましたが、避難者の参加が減り、2017年からは保養でこられた方々も健康相談会に参加できるよう、プロジェクトに相談会を入れた企画にし、親子で受け入れてきました。



8畳の和室 ゆっくりできますよ

しかしながら、保養企画をするには費用がかかり、毎年いろんなところから助成金をとって運営しなくては成り立たず、不安も抱えながら開催してきました。実は、今年で「つむぎプロジェクト」は最後になります。一番頼りにしていた助成金が今年で終わることと、私の限界から決断しました。「保養」についてもこれからどう広げたいのか悩み、疲れていました。

でも、この保養の家ができたことで、興味を持ってくれる人がもっと増えるかもしれないこと、そして常に受け入れてもらえるところがあるという安心感は、今後の活動の支えになると思っています。

相談会の事務局でもある神田さんのご実家で、保養に来る人達を受け入れられないかという話が出て、神田邸を皆で見学させていただいたりしていましたが、これまでの期間に私はなにもできず申し訳ないです。開設までに至ったのは奥森さん、神田さん始め、皆さんの力のお陰です。本当にありがとうございます。

放射線量が高い地域で不安を抱えて生活している人達が少しでもきれいな空気に触れ、のびのびと過ごすことを私たちは「保養」と呼んでいますが、世間一般には全く触れられていません。民間の団体が全国で連携を取りつつ、でもやっと継続している状況でスタッフも疲弊しています。企画するにも被災地のこどもたちの学校が休みでなければなかなか出てくることもできません。小さい子はなんとか保養に出せても、学校に入れば部活や友達優先になってしまったり、反抗期でなかな

か保養に出せません。

実は「さぼーと紡」は、私が福島から京都に避難する時、当時反抗期だった中3の長女だけを連れてこれなかったことが理由で始まったのでした。

この「保養の家」は、通年受け入れ可能ということで、とても心強く感じています。私がいつか福島に戻る日が来ても、もし京都に来ることがあれば利用してみたいし、やることがなければもっと関わっていきたいのですが、日頃いろんな活動が重なって、限りはあると思います。でもこの家を通しいろんな人に保養を知ってもらい、ちょっとしか関われなくても人数がいれば続けられます。

長くなりすみませんが、これからの活動の要(かなめ)になるよう願っています。

(齋藤 夕香)

● 大阪府高槻市在住の佐藤です

私が保養の家に協力しようと思ったのは、東日本の土壌や東京の落ち葉の放射能汚染を測り、実際に汚染が広がっているのを見てきたからです。

(私は京都・市民放射能測定所の取組みもしていますので。)

子どもたちにも、静かな場所で心安らぐ保養の家は、良い効果を与えます。夜きれいな星空を見上げるのも気持ちがいいし、虫をつかまえたり、土をいじったりしても安全ですし、楽しめる遊びを見つけてほしいと思います。

(佐藤 和利)

● 福島から避難して7年の高木です。

保養の家の開設嬉しく思います。

被災地にお住まいの方々の中では被曝による健康被害を懸念している方も多く存在します。

経済的な負担から保養をあきらめざるを得ない世帯もいると思われます。本来ならば国がしっかりと支援していくのが当たり前のことであるにもかかわらず目を向けられてません。

これまで、民間の心あるボランティア団体が多く立ち上がっておりますが財政難や人手不足から止む無く終了したところもありますが、そんな

中、京都やましる保養の家が開設された事はとても心強く思います。

奥森さんをはじめ皆さんの熱い思いに感動しております。

これからも、お手伝いができる場所はしたいと思えます。よろしく願います。

(高木 久美子)

● 精華町の吉井です。

2011年3月の震災で生活者や避難者について研究をしています。専門は家政学や家庭科教育、消費者教育です。

研究では、宮城県の石巻市の仮設住宅や避難場所になった学校、福島県の原因事故による避難者や、避難できなかった方々を見てきました。全国で保養プロジェクトがあるものの、最近「保養に行く」と言いにくくなっている様子なども聞いて気にしていました。

普段はバタバタしていて、大して何もお役に立てないとは思いますが、とても良い企画だな、と思いましたので、参加させて頂きました。「精華町在住」という強みだけを生かして(笑)微力ながらお手伝いできたら、と思います。

先日頂いたチラシ(6/29の公開イベントの件)を友達らに伝えていましたら、高校時代の友人から久しぶりに連絡があり「うちの実家の隣や。神田さんの家?」と言われて驚きました。その子が精華町とは、あまり意識していなかったもので…。時々実家に帰るらしいので、「近所の方も、是非前向きにご参加ください!と伝えておいて」と言っておきました。

それから、同じく精華町在住のヨガの先生をしている友達も、何かできることがあれば、と申し出てくれているので、保養所利用の時に、「ヨガ体験」というのが出来ても良いな、と思います。

長くなりましたが、どうぞ宜しく御願います。

(吉井 美奈子)



●京都やましろ保養の家を守り育てる会 財政執行状況（2019.8.31現在）

（収入）

科目	予算	執行状況	説明
会費	100,000	0	今後、「育てる会」への加入を呼びかけていきます
参加費	50,000	0	現在までイベント参加費収入はなし
寄付金	800,000	825,000	86人（家族）からカンパをいただきました
利用者寄付金	20,000	10,000	利用者から布団リース料の実費程度の寄付をいただいています
助成金	320,000	320,000	木津川マラソン20,000円、こんどプロジェクト300,000円
その他収入	1,000	0	現時点では収入なし
合計	1,291,000	1,155,000	

（支出）

科目	予算	執行状況	執行状況の説明
修繕費	200,000	183,592	畳表替え、ふすま・障子・網戸の修繕、引き戸など
備品費	30,000	0	現在まで支出なし
消耗品費	70,000	41,770	事務用品、保養の家に必要な消耗品
寝具リース料	60,000	21,600	利用者の寝具リース料（8月分）
報償費	50,000	0	現在まで支出なし
使用料	40,000	0	現在まで支出なし
食糧費	20,000	3,314	保養の家用の調味料などの購入費
印刷費	10,000	3,210	チラシの印刷費、コピー代
通信費	60,000	3,854	開設記念のつどいチラシ郵送料
交通費補助	300,000	0	9月利用者の補助を今後支出予定
管理費	180,000	0	保養の家の清掃作業への時給支払い、今後支出あり
事務所使用料	20,000	20,000	共同事務所（丹波橋）の年間使用料
その他支出	1,000	1,188	振り込み手数料など
次年度繰り越し	250,000	250,000	次年度の交通費補助の財源として当面25万円を確保しています
合計	1,291,000	528,528	

（差引残高） 1,155,000円 - 528,528円 = 626,472円 を会計担当が管理しています！

<今後のイベント情報>

●京都やましろ保養の家 秋のお掃除イベント&大交流会

【日時】10月27日（日）10:15～15:00

【場所】京都やましろ保養の家（京都府相楽（そうらく）郡精華町東畑前坂16）

【内容】1部）秋の大掃除 10:15～12:00

2部）大交流会 12:30～15:00

*詳しくは、後日発行する案内チラシを参照してください！